

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	水野 良祐
所属機関	京都大学消化管外科
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	SAGES 2025 (米国内視鏡外科学会)
渡航期間	自 2025/03/07 至 2025/03/16
・研究内容 ・国際学会・会議内容	Comparison of Oncological Outcome between Robotic and Laparoscopic Surgery for Rectal Cancer in a Japanese Multicenter Registry
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>2018-21年に日本の16病院で診断された stage I-III の中下部直腸腺癌患者のうち、低侵襲手術を受けた1,053人を対象とした多機関共同コホート研究。主要評価項目は3年無再発生存(3yRFS)とし、交絡調整のため、傾向スコアによる逆確率重み付け(IPTW)を用いた。</p> <p>536人がロボット手術、517人が腹腔鏡手術を受けた。手術時間はロボット群で有意に長く(435分 vs 366分)、Grade II以上の全合併症(28.4% vs 32.0%, RR: 0.89, 95% CI: 0.72-1.09)に有意差は認めなかった。一方、病理学的完全切除率はロボット群で有意に高く(98.2% vs 95.3%, RR: 0.38, 95% CI: 0.16-0.90)、3年無再発生存率もロボット群で有意に優れていた(83.6% vs 78.2%, HR: 0.723, 95% CI: 0.525-0.997)。</p> <p>2025年のSAGESにて上記演題でPlenary sessionに採択され、口頭発表を行なった。学会内で最も大きな会場で、「plenary」の名の通り、同時間帯に行う唯一のセッションという形式での発表となった。このような大きな舞台での国際発表経験は非常に貴重なものとする。研究に内容に関しては、ロボット手術が世界で最も盛んな米国においても依然として「ロボット手術 vs 腹腔鏡手術」の議論は続いている。ホットトピックで会ったこと、症例数の多さ、結果の有意性などからPlenary sessionでの採択となったと、選考委員の先生から伺った。</p> <p>本研究の結果は論文投稿に向け準備中である。今後も大腸癌手術におけるロボット低侵襲手術の研究を続けていく。</p> <p>このような機会を経験できたのも、貴財団の助成のおかげであり、心より感謝申し上げます。</p>	